

【新聞記事から「学級崩壊」】

先日の新聞に、学級崩壊急増という記事がありました。それによると、2009年度に県内の公立小学校で学級崩壊となったのは162学級、その影響を受けた児童は約5000人に上り、5年間で倍増したそうです。

さて、学級崩壊というのはどういう状態を言うのでしょうか。文部科学省によると、「生徒が教室内で勝手な行動をして教師の指導に従わず、授業が成立しない学級の状態が一定以上継続し、学級担任による通常的手段では問題解決ができない状態に立至っている場合」とあります。少し分かりにくい表現ですが、これを県教委では、「教師の指導に3割以上の児童が従わない、他の児童も対象児童を注意せず迎合する、担任が指導中別の児童が問題行動を起こす・・・」などを判断基準にしているということです。こういうことが学級で起こっているとすると日々の学習活動や学級活動に支障が出ることは明らかであり、そこに所属する児童は毎日どんな思いで生活しているのだろうと心配になるのは私だけではないでしょう。

今回この記事が特に気になったのは、最近幼稚園や保育園の先生が「園では基本的な生活の習慣から教えなければならなくなっています。」と言っていたこと、小学校1年生ではいわゆる「小1プロブレム」と言われるようですが授業中子どもが椅子に座ることができないなどの現象が見られるということをよく耳にするからでした。本来家庭で身につけなければならないことが保育園や幼稚園での指導に委ねられ、さらにそれが小学校において最初に取り組まなければならないことになれば、学校現場はこれまでと大きく様変わりすることになるでしょう。その結果として、現在も増加傾向が見られるという学級崩壊というような現象が今後ますます深刻な問題となっていくのではないのでしょうか。

少子化で1学級あたりの児童数が減少している今、新たな制度を作り1年生のみ1学級あたりの児童数を35人にすることも考えられているようですが、それが果たして根本的な解決につながるのかは疑問です。

学校と家庭は一つになって子どもの教育に当たることが大切であることは言うまでもありませんが、学校には学校の、家庭には家庭の、それぞれ大切な、そこでしかできない大きな役割があります。教師も保護者もその役割をしっかりと認識し、責任を持って子どもを導いていくことが求められます。

【緊急メールのシステム変更について】

先日、緊急メール配信のシステムの変更についてのお知らせをお配りいたしました。これまで学校独自のシステムで行ってききましたが、一定時間内に送信できるメール数が限られていたことやパソコンが設置してある場所でないとメール送信ができなかったことなどの問題を解決するための変更です。変更の必要性を強く感じたきっかけは12月3日の突然の大雨でした。朝6時の段階では大雨に関する警報は発表されるように思えませんでしたでしたが、多少の雨は覚悟をして私は家を出ました。その後6時半ごろから雲行きが怪しくなり、まるで夜のように暗くなったかと思うとあちこちで道路が冠水するほどの大雨になってしまいました。中高からは、「通学路冠水のため生徒の登校に支障が出ているので中高生は栗平駅から帰宅させます。」という連絡が入りました。そのとき私にできることは、栗平駅にすぐに駆けつけることができる教員に連絡し、小学生をできるだけスクールバスに乗車させるようにすることだけでしたが、保護者の皆さんはきっとお子さんのことを心配しておられるだろうという思いがありました。そういうときにこそ迅速な連絡ができなければ緊急メールの意味がありません。

今回のシステム変更では、保護者の皆様には再登録というお手数をおかけいたしますが、ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

なお、学校へのメールでの連絡（欠席などの連絡）はこれまで通り受け付けますが、保護者専用のメールアドレスは hogosha@tokoes.com のみとしますのでご了承ください。

【子どもを犯罪から守るために】

またもや幼い子どもが犯罪の犠牲者になる事件が起きてしまいました。今回は3歳の女の子がスーパーのトイレで殺害され死体が遺棄されるというものでした。犯人は逮捕されましたが絶対に許されることではありません。事件に巻き込まれた子どもは家族のもとに戻ることはできず、家族の悲しみを思うと胸が痛みます。

こういう事件が起きるといつも思い出すのは、以前海外生活を経験された方が、「公園やデパートなどで子どもがトイレに行きたいと言ったときに絶対に一人では行かせることはできません。必ず親がついていくのが当たり前です。」と言っていたことです。今回の事件でもそうだったように、小さい子どもは大人が持つ鞆やバックに入れられて連れ去られることもあるのだそうです。デパートや公園などのトイレの入り口はそれぞれの施設では奥まったところや見えにくいところにあることが多く、こういう犯罪が発生しやすい場所ではないのでしょうか。子どもが自分の力だけでは自身の安全を確保できないような場所では、一緒にいる大人がしっかりと子どもを守らなければなりません。桐光学園小学校の子どもたちの多くは、電車やバスを使って通学しています。途中トイレに立ち寄ることもあるでしょう。常に大人と一緒にいることはできませんので、できるだけ子ども同士が仲よく声をかけ合うことができるようにしていきたいものです。